



学校だより

令和5年1月31日

2月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「つなげて考える」

校長 加藤 智敏

1月19日に、休憩時間中の発災を想定した避難訓練が行われました。校庭で遊んでいた児童はその場にしゃがんで身を守り、校舎内で活動していた児童は机の下にもぐって頭を守ったり、落下物がなくて体丸めたりして被害を最小にとどめられるよう考えて行動していました。校庭に全校が避難した後、タイトルにあるように「つなげて考える」ことの大切さについて話をしました。普段の活動や授業で学んだことの意味や役割について考えること、また、学んだことを生活の中でどのように活用していけばよいのかと考えることの大切さです。

学校では、二列に並んで廊下を歩き特別教室（理科室、音楽室等）へ移動したり、給食を運んだりします。体育の授業でも整列したり、行進をしたりという場面もあります。二列縦隊を基本とし、何度も何度も実践が繰り返されているのです。先日、5年生が公共機関を使用しその後徒歩で、ふれあいコンサート会場のみなどみらいホールに向かいました。校外でも素早く整列し、まちの中や駅構内を歩く多くの人々や混雑した電車に乗車中の人に迷惑にならないよう、時には一列になり、時には小さくまとまって集まるなど、相手意識をもった行動が見られ嬉しく思いました。学びを生かした5年生は次の避難訓練だけでなく、普段の意識や行動もよりよいものになると思っています。他にも登校時に5・6年生が中心となってあいさつ運動が行われました。いじめの防止、相手を思いやる心の醸成のために、「あいさつ、ありがとう」の言葉を大切にしていきたいと、保健委員会で討議し、展開されている活動です。一つ一つの活動を「なぜこのような活動をするのか」そのことについての意味や価値、役割を明らかにし、つなげて考えられていることに成長を感じます。このように自分たちでできることを増やしている子どもたちには、一つ一つの行動を指導するだけではなく、意味や価値、役割を伝え、考えることを通して、「そうか、前にみんなで考えたことはこのこととつながるのか」「これをうまく使えば解決できるな」と物事をつなげて考え、よりよい解決や創造を見出していく力を身に付けられるよう支えていきたいです。

今、横浜市の学力学習状況調査が大きく変わろうとしています。今回の調査で何点だった、平均は何点だという指標をもとに見ていくのではなく、子ども一人一人の学力の「伸び」を測り、指導の改善につなげていく調査となります。その中でも、子どもたちの学力の伸びと大きく関わることとして、実生活の事象との関連を図った授業や各教科を横断的につなげるような学習展開、また、話し合い活動を中心に互いの意見のよさをつなげて合意形成を図ったり、自分の考えを広げたり深めたりするような学習を進めていくこと等が挙げられています。本校でも一つ一つの教育活動をつなげ、子どもたちの資質能力の向上を目指します。そして、これらの学力の伸びは、別のデータから、家庭や地域との連携が大きく関わることも明らかになっています。今後も保護者の皆様や地域、関係機関の皆様と共に子どもたちの学びや育ちを支えていくことができればと思います。変わらぬご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

<お悔やみ>

1月16日に、お三の宮地区連合町内会会長、日枝小学校学校運営協議会会長の豊田 猛 様のご逝去されました。豊田様には、いつも子どもたち、そして学校を温かく見守っていただきました。心より感謝申し上げますとともに、謹んでお悔やみ申し上げます。